

新概念GSM (Genitourinary Syndrome of Menopause : 閉経関連尿路性器症候群) としてみた性器・尿路愁訴に ウチダの八味丸Mが著効した3例

女性医療クリニックLUNA ネクストステージ (神奈川県) 関口 由紀

GSMは、閉経による性ホルモン分泌低下によって生じる尿路生殖器の萎縮等の形態変化およびそれに伴う不快な身体症状や機能障害の総称で、従来の萎縮性膀胱炎という単語に比較して、症状・病態を包括的に説明する概念とされる。3徴は、1. 陰部の乾燥感・不快感、2. 性交痛他のセックストラブル、3. 尿トラブル (頻尿・尿漏れ・再発性膀胱炎) である。西洋医学的治療は女性ホルモンと男性ホルモン両方のホルモン剤の局所投与やレーザー照射などである。一方、八味丸は腎虚に用いられる代表的な方剤であり、古来より日本では、1.2.3.の治療に用いられてきた。今回GSMに対して八味丸が効果的であった3症例を提示する。

Keywords GSM (Genitourinary Syndrome of Menopause)、八味丸、腎虚

はじめに

GSMはGenitourinary syndrome of menopauseの略称で、日本語訳は閉経関連尿路性器症候群である。2014年に北米閉経学会と国際女性性機能学会が、共同で提唱した新疾患概念¹⁾で、閉経による性ホルモン分泌低下によって生じる尿路生殖器の萎縮等の形態変化およびそれに伴う不快な身体症状や機能障害の総称で、従来のVulvovaginal atrophy (VVA : 萎縮性膀胱炎) という単語に比較して症状・病態を包括的に説明する概念とされる。GSMは慢性かつ進行性の疾患であり、中年以降の女性の約半数が罹患していると報告されている^{2, 3)}。しかしまだ罹患人口が確定したわけではない^{4, 5, 6)}。日本の10,000名を対象にした婦人科医が行ったオンラインサーベイでは、GSMの発症率は44.9%と報告されている⁷⁾。さらに2021年に日本性機能学会女性性機能委員会でも日本女性のGSM頻度に関して調査を行った。この論文では、まだ過活動膀胱に対する女性ホルモンの関与に関するエビデンスが低いことを理由に、外陰症状やセックスのトラブルなどが無い、50歳以上の女性の過活動膀胱をGSMからはずしており、その結果日本人のGSMは20~30%としている⁸⁾。

GSMの症状と西洋医学的治療

GSM患者の自覚症状は尿路および生殖器に関わるもので、外陰部乾燥感・灼熱感・搔痒感のような外陰部の皮膚

症状や、排尿困難感・頻尿や尿意切迫感・反復性尿路感染症などの尿路系症状、さらに性交渉の機会がある場合は、膣分泌液の減少・性交痛・オーガズム障害・性交後出血といった性機能に関する症状を訴える。症状は一つのこともあるが、複数の症状を訴える場合もある^{1, 2)}。つまりGSMの3徴は、1. 陰部の乾燥・不快感 (イガイガした感じ)、2. 性交痛他のセックストラブル、3. 尿トラブル (頻尿・尿漏れ・再発性膀胱炎) である。

西洋医学的な治療選択肢として女性ホルモン局所投与⁹⁾、女性ホルモン全身投与、保湿剤、潤滑剤、ダイレーター、テストステロン局所投与、DHEA (Dehydroepiandrosterone) 膣剤¹⁰⁾、SERM (Selective Estrogen Receptor Modulator)、フラクショナルCO2レーザー¹¹⁾、エルビウムYAGレーザーのスームモード¹²⁾などがある。

八味丸のGSMの治療薬&予防薬になる可能性

八味丸は、腎虚を治す補腎剤の代表方剤であるが、夜間尿・口渇を訴える、冷えて血色のよくない高齢者の健康維持薬とも言い換えることができる。

腹証として臍下不仁を認め、舌は萎縮・乾燥傾向で白苔が少ない患者が長期に内服継続可能な場合が多い¹³⁾。図1、2に典型的な八味丸を長期に服用可能な舌と、胃腸障害等が起こり長期に内服できない舌を示す。今回3例のGSMの高齢女性に八味丸を長期に投与して経過良好な症例を報告する。

図1 八味丸を長期に継続可能な舌



図2 八味丸を長期に継続内服が難しい舌



症例1 74歳 女性

【主 訴】 尿漏れ、排尿時に陰部がしみる。1ヵ月前から尿漏れと排尿時に陰部がしみるということで受診。

【現 症】 舌：白苔なし、萎縮傾向あり。腹：下腹部の筋力低下あり。外陰部：尿道円形化あり、膣前庭部は乾燥傾向、咳をさせても尿道からの尿漏れは認めない。

【現病歴】 GSMと診断し、ウチダの八味丸M 40丸(朝食、夕食各食前)を開始した。β3刺激薬 ミラベグロンも併用した。さらにフェムゾーン(膣と外陰)の保湿ケアと骨盤底筋トレーニングの指導をした。3ヵ月後には、排尿時にたまにぴりっと痛い、尿漏れもない状態となった。24ヵ月後も、同様の処方継続している。

症例2 87歳 女性

【主 訴】 夜間頻尿と陰部の違和感。

【現 症】 舌：白苔なし、萎縮傾向あり。腹：下腹部の筋力低下あり。外陰部：尿道円形化あり、膣萎縮による膣狭窄あり。

【現病歴】 レンボレキサント10mg、イミプラミン10mgの投与を開始した。1ヵ月後には、症状6割程度改善し、さらに継続投与希望。14ヵ月後に、違和感が落ち着いているが、立ち上がった時に切迫尿意があるとの訴えあり。

イミプラミンを中止して漢方を飲んでみたいと希望したため、ウチダの八味丸M 40丸(朝食前、夕食前)開始。さらに骨盤底筋トレーニングも再指導した。2ヵ月後調子良いとのことで継続処方となった。

症例3 80歳 女性

【主 訴】 頻尿、排尿困難感、膀胱炎になりやすい。

【現 症】 舌：白苔なし、萎縮傾向あり。腹：下腹部の筋力低下あり。外陰部：尿道円形化あり、膣前庭部の発赤と乾燥、小陰唇の萎縮あり。

【現病歴】 主訴に加え時々下着に茶色の帯下が付着するという訴えあり。残尿57mL。子宮頸部・体部細胞診 陰性、経膣超音波 異常なし。ウラピジル30mg 2×、ウチダの八味丸M 60丸(各食前)、さらにアズノール軟膏+亜鉛華単軟膏1~2回/日外陰部塗布の治療を開始した。12ヵ月後排尿困難感は軽快、18ヵ月後膀胱炎になりにくくなったとのこと。受診後36ヵ月で継続投薬中である。

今回報告した3症例において、薬剤に起因すると考えられる副作用はみられなかった。

最後に

GSMの予防・治療のためには、フェムゾーン(外陰・膣)の保湿ケアや、骨盤底筋トレーニングの指導を行い、さらに八味丸等の補腎剤で腎虚の治療を継続することが、効果的であると考えられた。

【参考文献】

- 1) Portman DJ, et al: J Sex Med. 11: 2865-2872, 2014
- 2) The NAMS 2020 GSM Position Statement Editorial Panel.: Menopause. 2020 Sep; 27 (9): 976-992. doi: 10.1097/GME.0000000000001609
- 3) yane Cristine Alves Sarmiento, et al.: Frontiers in Reproductive Health MINI REVIEW published: 15 November 2021 doi: 10.3389/frph.2021.779398
- 4) Kingsberg SA, et al: J Sex Med.10: 1790-1799, 2013
- 5) Nappi RE, et al: Climacteric. 19: 188-197, 2016
- 6) Chua Y, et al: Climacteric. 20: 367-373.2017
- 7) H Ohta, et al.: Online survey of genital and urinary symptoms among Japanese women aged between 40 and 90 years Climacteric 2020 Dec; 23: 603-607.
- 8) Ozaki Y, et al.: Int J Urol 2023 Oct; 30: 860-865. doi: 10.1111/iju.15216. Epub 2023 Jun 7.
- 9) Mitchell CM, et al: JAMA Intern Med. 178: 681-690, 2018
- 10) Labrie F, et al: J Sex Med. 12: 2401-2412, 2015
- 11) Sokol E, et al.: Menopause; 3 (10): 1102-7, 2016
- 12) Lin KL, et al.: Lasers Med Sci. 2022 Jun;37 (4): 2203-2208. doi: 10.1007/s10103-021-03484-x. Epub 2022 Jan
- 13) 桑木崇秀: 健保適用エキス剤による漢方診療ハンドブック p234 創元社